

4 各教科等の指導のポイント

国語

児童生徒が言葉による見方・考え方を働かせ、主体的に課題解決に取り組む授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 指導事項の系統性を踏まえるとともに、それぞれが示す内容を適切に捉え、単元において育成を目指す資質・能力の焦点化を図る。
- ② 育成を目指す資質・能力を活用・発揮している児童生徒の記述や発話等を具体的に想定した評価規準によって適切に評価することで、児童生徒の学習や教師の指導の改善につなげる。
- ③ 課題解決に向けた試行錯誤の過程で、資質・能力を活用・発揮する場面が生まれる言語活動を構想する。
- ④ 言葉に着目し、個で思考・判断・表現する活動と集団で吟味・検討する活動とを必要に応じて往還するなど、課題解決につながる学習過程を構想する。
- ⑤ 児童生徒が学校図書館やICT等を目的に応じて主体的に選択し、活用する場面を学習過程に計画的に位置付ける。
- ⑥ 児童生徒が学びの進捗状況を自覚するとともに次の学びへつなげることができるよう、自己の学習状況を振り返る場面や振り返りの視点を適切に設定する。

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するための学習の例

中学校第2学年 「読むこと」
教材名『アイヌプラネット』

単元名

「最も共感できる登場人物を紹介しよう」～登場人物の設定の仕方を捉えて読む～

◇単元の目標（一部）

- (1) 類義語と対義語について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1) エ
- (2) 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1) ア

◇単元の流れ（全4時間）

〔第1・2時〕

- 初読の感想をもち、登場人物についての感想を発表する。
- 初読の感想を基に、「『ぐうちゃん』『父』『母』のうち最も共感できる人物は誰か。あなたの共感が他の読者にも伝わるように紹介しよう。」という学習課題を設定し、学習の進め方の見通しをもつ。
- 学習課題の解決に向けて、生徒それぞれが選んだ方法で紹介内容をまとめる。

〔第3時〕

- 学習課題を解決するために必要な意見交流を相手を選んで行い、紹介内容をまとめる。

〔第4時〕

- 共感した登場人物について紹介し合う。

単元名には、
「本単元における課題解決的な言語活動」と
～単元で育成を目指す資質・能力～を記載します。

授業づくりで確認する視点
・資質・能力を育成するために有効な言語活動か
・本時のねらいと学習課題、学習活動が整合しているか
・生徒が課題解決に向けて試行錯誤する場面があるか

＜学習課題を設定し、学習の見通しをもつ場面＞

T：共感する人物を紹介するためにはどのようなことが必要でしょう。

S1：言動に着目して、紹介したい人物の人柄を読み取るとよいと思います。

S2：紹介したい人物が他の人物からどう思われているか、他の人物との関わりを考えるのもよいと思います。

どのような人物かを捉える視点を挙げるができたね。それを生かしながら、あなたの共感がより伝わるようにするにはどうしたらよいでしょう。



S3：紹介したい人物を表現するのにふさわしい言葉を選んで伝えようと思います。

S4：紹介したい人物を、対照的な人物と比較して表現すると分かりやすいと思います。

様々な語を比べて最適な言葉を選んだり、人柄を考える時にも言葉の違いによる印象の差について考えてみたりすることも大切ですね。



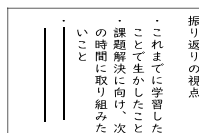
学習課題を解決するには、「登場人物の設定の仕方を捉える」ために必要なことだけでなく、語彙に関する知識及び技能を活用する必要があることに気付かせて、自覚的に学習を進められるよう促します。

学習課題を解決する過程で知識及び技能を活用しながら思考力、判断力、表現力等を発揮していくことが大事だということを、生徒が実感できるように、学習課題や生徒への問い返しを工夫します。

③

＜第1・2時の振り返りの場面＞
(生徒の振り返り)

私は初め「ぐうちゃん」は自由でうらやましいと思っていた。けれど、ただぐうたらしているわけではなさそうだと思えてきた。あだ名の由来の「ぐうたら」の意味と、「ぐうちゃん」の生き方を比べながら紹介するのにふさわしい言葉を探していきたい。



振り返りによって自身の学びや変容を自覚できる場面を設定することが大切です。

人物像を捉えたり、紹介したりする際に、必要なことについて、どのような気付きがあったかを、生徒自身が振り返ることができるようにします。

⑥

指導事項の系統性を理解した上で、生徒の実態を分析し、単元で育成する資質・能力を明確にして単元を構想します。単元の導入段階においては、作品を読むための学習課題が自分事となるように、生徒とともに設定することが大切です。

①

